

# 特集 親と子のギャラリー 仏さまのかたち

— 写す、伝える、広がる —

Family Gallery

Shapes and Forms in the Buddha's World

Interpreting, Expressing, and Connecting

2025年7月23日(水)～8月31日(日)

とうきょうこくりつはくぶつかん へいせいがん まかてんじしつ  
東京国立博物館 平成館企画展示室

仏教にはたくさんの仏さまが登場します。仏さまのかたちには決まりがあり、決まりをもとに仏像や仏画が作られました。たくさんの仏さまがいるなか、仏教の教えの一つである密教の仏さまは、顔や腕の数が複数あり、さまざまな表情やポーズ、持ち物があるなど、そのかたちは複雑です。仏さまですから、かたちを間違えてはいけません。

一方で、仏さまのかたちやその決まりを知っていると、どの仏さまが表されているのかがわかります。密教が盛んになった平安時代以降、天皇や貴族も仏さまのかたちに興味を持ち、当時のお坊さんたちはさまざまな仏さまのかたちを集めて整理しました。

今回の特集は、仏さまのかたちを正しく写し、それを伝える当時の人びとの工夫と、仏さまのかたちが後世まで広がっていく様子を紹介합니다。

Buddhist gods are often depicted according to specific rules, such as having a certain number of faces or arms, holding objects, or posing in particular ways. These rules were communicated through visual representations, rather than written descriptions. This exhibition explores how these images of Buddhist gods were interpreted, creatively represented, and passed down to later generations.

じゅうろくぜんしんずざう げんしやうひつ  
十六善神図像 玄証筆

平安時代・治承3年(1179) 京都・高山寺伝来

松永安左工門氏寄贈 A-10579

The Iconography of the Sixteen Benevolent Gods



# ① 仏さまのかたちを写す

歴史や由緒のある仏さま、たくさんのお坊さんが留学した中国から新しく伝えられた仏さまは、仏像や仏画を作る人びと（仏師、絵仏師）や、仏教の儀式を行うお坊さんにとっても大切な情報でした。現代ではスマートフォンやカメラのボタンを押せば、仏さまのかたちは簡単に写すことができます。しかし、ここに掲載した作品が作られた当時の人びとは、筆を使って描くことで記録していました。絵があまり得意ではないお坊さんも、複雑な仏さまのかたちを正しく写さねばなりません。しかも一発勝負です。誰にとってもやさしく写せる工夫が必要でした。「十二天図像（毘沙門天）」の部分図をご覧ください。ところどころ墨がはじけています。しかも、紙の色は茶色っぽいですね。これは「油紙」（あぶらがみ・ゆし）と呼ばれるもので、現代でいうところのトレーシングペーパーなのです。和紙に油（植物性の乾性油）をコーティングしたもので、油がしみて紙が半透明になり、写したい仏さまのかたちが描かれたお手本に重ねて、上からなぞることで写し取りました。また、絵具を使わず、墨の輪郭線のみで写し取る点も工夫の一つです。絵具を使わないことで費用を抑えることができるうえ、筆と墨なので誰でも手軽に描くことができます。こうした墨の輪郭線を主体とした表現手法を「白描」といいます。また、仏さまのかたちは「図像」と呼ばれます。「白描図像」は、師匠のお坊さんが持っていた白描図像そのものをお手本にすることもあれば、仏像や仏画そのものがお手本となることもあります。仏像や仏画の場合、色がついていますので、絵具を使わない白描図像では、色の名前が書きこまれています。これを「色注」といいます。これにより、精度の高い白描図像からは、立体的な仏像も復元することができるのです。



部分

墨が途切れ途切れになり、はじけています。「朱」「赤」という色注もみられます。ぬり絵みたいです。油紙は中国から伝わりましたが鎌倉時代半ば以降になると、ほとんどみられなくなります。代わりに薄い紙が使われました。ですから油紙が使われている図像は古いということがわかるのです。

## 高雄曼荼羅図像（金剛界）

鎌倉時代・13世紀 京都・高山寺伝来 A-12489  
Iconography of the Takao Mandala (The Diamond Realm)

高雄曼荼羅（京都・神護寺に所蔵される現存最古の曼荼羅）に描かれた仏さまを写して本にしたものです。仏さまのかたちにあわせて紙が切られ、アルバムのように貼りあわされています。お手本帳みたいです。



## ◎十二天図像（毘沙門天）

鎌倉時代・13世紀 原本：珍海筆 平安時代・12世紀 A-12186-5

The Iconography of Bishamon Ten, One of the Twelve Devas

作品に記された文字から、「珍海」という当時の有名なお坊さんが描いた、京都・醍醐寺に伝わる十二天（のうちの毘沙門天）がお手本だったことがわかります。珍海の十二天像は、これまで座った姿で表されていたものを、屏風に描くことができるように、立ち姿に変えて作り出されたものです。新しい十二天の姿でした。

# ② 仏さまのかたちを伝える

仏さまのかたちは伝えるために写されました。写された仏さまのかたちは、師匠から弟子のお坊さんへと伝えられるもの、仏像や仏画の設計図（下絵）として使用されるもの、集められ整理されて編集されたものがありました。編集されたものには、仏さまのかたちについて経典や儀軌（儀式の決まり）に記された部分が引用されたり、儀式で用いるための具体的な方法が記されたりして、まさに仏像事典といえる内容です。



## 十巻抄（忿怒部）

鎌倉時代・13世紀 A-765

Album of Buddhist Gods and Goddesses (Wrathful Deities)

不動明王をはじめとした、さまざまな怖い顔（忿怒）の明王が集められた図像集です。これを見ると、不動明王にもいろいろな「かたち」があったことがわかります。

部分

# ③ 仏さまのかたちが広がる

空海（774～835）のように密教で大切なお坊さんにかかわる仏像や仏画、密教以外でも、古い時代に制作された仏像や仏画は、後の時代にも尊ばれ、良いお手本となりました。空海ゆかりの両界曼荼羅（現図曼荼羅）は繰り返し描かれていますし、奈良時代（あるいは中国の唐時代）に作られた「当麻曼荼羅」（奈良・當麻寺蔵）は、修理のたびに数多くの模本（原本を写した作例）が描かれました。また、この章で紹介する「不動明王二童子像」は、比叡山に伝わった鎌倉時代の仏画をお手本にしています。お手本を直接写して描くこともありましたが、多くの場合、白描の手法で写された仏さまのかたちをもとに制作されました。仏さまのかたちが時代をこえて伝わり、広がる様子をご覧ください。



## 当麻曼荼羅

鎌倉時代・14世紀 A-11813

The Taima Mandala

原本のおよそ8分の1サイズです。中央には阿弥陀如来の paradisaide, 周りには阿弥陀如来にまつわるエピソードが描かれます。



## 当麻曼荼羅 神田宗庭隆信筆

江戸時代・天保7年（1836） 下野三悦坊伝来 喜多川儀久氏寄贈 A-12440

The Taima Mandala

とてもカラフルでparadisaideの臨場感があふれています。絵具が本来持つ美しい色を味わうことができます。古い時代の仏画も、描かれた当初はこのようにキラキラと輝いていました。



## 不動明王二童子像 勝山琢舟筆

江戸時代・18世紀 A-273

The Wisdom King Fudō with Two Child Attendants

お手本とした鎌倉時代の仏画にはみられない、背景を金で表現しています。この作品を描いた勝山琢舟によるアレンジが加えられています。



特集 親子のギャラリー 仏さまのかたち ——写す、伝える、広がる——  
令和7年（2025）7月23日発行

執筆：古川攝一 展示企画：古川攝一、川岸瀬里、中村麻友美 撮影：藤瀬雄輔ほか 翻訳：足立奈緒子  
ロゴデザイン・表紙デザイン原案：荻堂正博（以上、東京国立博物館）  
制作・印刷：アイワード 編集・発行：東京国立博物館 ©2025 東京国立博物館 Tokyo National Museum

※◎は重要文化財です。 ※掲載作品は、すべて東京国立博物館の所蔵品です。